

金魚すくい～破れてポイと捨てるからポイ？

フリーランスライター 藤木順平

昔の物売りに「一声一町（ひとこえいっちょう）」といわれる売り声があるそうだ。両側に桶をつるした天秤棒担いで「きんぎょ-----え-----きんぎょ-----」と町々を売り歩く。金魚売りの売り声は長く、その間にひとつの町を通り過ぎることをいったもの。

落語から得た知識なので真偽のほどはわからない。

夏祭りや縁日で「金魚すくい」は定番である。

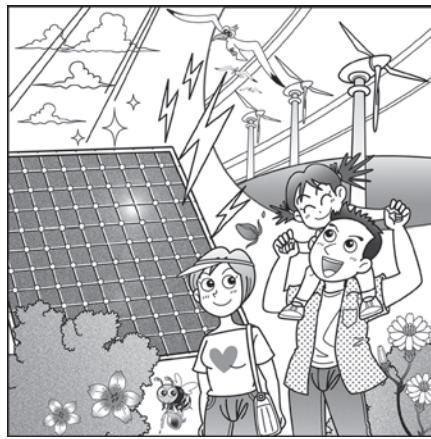
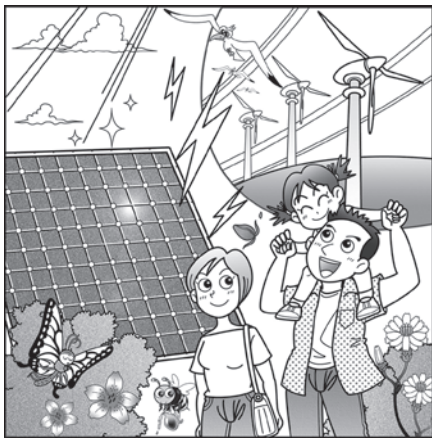
金魚をすくう用具の名前が「ポイ」というのは数年前、テレビで知った。ポイ業界(?)によると、ポイに使われる紙の厚さで4号から7号に区分けされている。4号が最も

丈夫で、順次5号、6号と紙が破れやすくなる。

通常は5号が使われるようだが、金魚すくいをやる際、ために、店のお兄ちゃんに聞いてみるとよい。「うちは6号だよ」といったら、金魚をすくわずお兄ちゃんを救うことになるので、やらずに見物に回ったほうが賢いかも。

すくわれた金魚は弱くてすぐ死んでしまうといわれるがそうでもない。以前、わが家で飼った金魚は、エアポンプを使った飼育で30センチほどにも育った。

夜店の金魚 すくはるときの かがやき (山頭火)



* 右の絵と左の絵には相違点がある。7か所あります。見つけられますか？ (答えは15頁にあります)

7つの
間違い探し

[作者紹介]

神谷一郎 (かみや・いちろう) イラストレーター、デジタルイメージ会員、日本出版美術家連盟会員など。専修大法学部卒業後、漫画プロダクションを経て漫画家に。現在はフリーランスのイラストレーターとして、雑誌・広告・WEB等で活躍中。第35回集英社YJ新人賞、第51回講談社漫画賞などを受賞。第4回デジタルアートコンテスト佳作。著作に「マニアックサイバー」(グラフィック社刊)。



サギ撲滅の2本柱



1 こんな言葉を電話で聞いたらサギだ!

- 「急にお金が必要!用意して!」
- 「キャッシュカードを預かります。」
- 「ATMで医療費を還付します。」



2 留守番電話設定のお願い!

- 「犯人は留守番電話を嫌います。」
- 「常に留守番電話設定を!」
- 「留守番電話が作動する前に取らないで!」
- 「迷惑電話防止機能付き機器の購入検討を!」



神奈川県警察